

野口記念館の後継施設として計画が進む、野口遵記念館を考えるシンポジウムが2月24日、延岡市役所講堂であった。市民ら約90人が出席して、基本設計に関する考え方やパネルディスカッションで意見を交換した。

主催者の読谷山洋司市長は「ワークショップは開催しています。記念館は市民に



パネリストや出席者が積極的な意見を交わしたシンポジウム（2月24日、延岡市役所講堂）

とって極めて大事な施設。新しくなつてから後悔しないためにも積極的な参加をいただき

延岡市

野口遵記念館を考える

文化の殿堂 末永いサポートを

シンポジウムに発表や練習の場

う一番大事な条件が既に与えられています。しかも市役所に隣接している」と話した。

パネルディスカッションには、特定非営利活動法人アートマネージメントセンター福岡代表理事の糸山裕子

「ターに、「文化の殿堂を目標して」をテーマに意見を交わした。パネリストたちはそれぞれに野口記念館の思い出や運営について発言。このうち渡邊さんは「物心ついた時から野口記念館がありま

さん、野口遵顕彰会幹事長の生田邦昭さん、延岡史談会副会長の甲斐典明さん、音楽家グループ「ADVANCE」二元会長の渡邊百合子さん、香山建築研究所代表の香山さん、読谷山市長が出席。空間創造研究所所長の草加叔也さんをコーディネ

ールにと提言したことを紹介。一方で「行政としては運営管理コストは下げたいと考えます」とした。

香山さんは「建物は時代と共に機能が変わる。構造体はシンブルにして、中身はその都

たいとあいさつした。香山壽夫建築研究所（東京）の香山代表が進捗（しんちよく）状況を説明。新しい記念館のデザイン画や最新の図面を示しながら、「延岡の文化の殿堂、皆さまの『大きな家』にするために、文化、歴史、そして地形とい

した。合奏クラブの発表や合唱祭、市民音楽祭の会場として足を運ぶ。少しおしゃれをして音楽を楽しむ場所です、そこに立つことが憧れの場所でした」と振り返った。

また、読谷山市長は音楽重視の基本計画から、多目的に使えるホ

度変えられるようにします。100年持つ建物造りますので、末永い市民のサポートをお願いします」と理解を求めた。客席からも「求められるのは、歌謡や演劇に使える中ホールの機能。これまでは発表の場でしたが、練習の

場としての役割も考えてほしい」「日本舞踊の人たちからは、緩帳（どんちよう）がなくなるのはさみしい。今の物を生かすことはできないかという声も挙がっている」「女性トイレの数を増やすことを検討してほしい」などと積極的な意見が出た。糸山さんは「トイレに関してはLGBTのこともあり、現時点で最新の物になると思う」とし、「皆さん納得できる施設になるまで5年くらいかかる。当初は）クレームは覚悟してほしい。皆さんの意見を拾い上げてスタッフがコンセンサスを得るための期間です。いっぱい使ってください」と呼び掛け